

第3回 三気の里 講演会

障がい者支援施設 三気の里

〒869-1217 熊本県菊池郡大津町森 54-2

助成事業の概要

本事業は、発達障がいに関心がある人はもとより、地域での受け皿を作るという意味でも、今回の事業を通して、今まで関心が低かった方々や後進の福祉人となるべき学生の方々やなど、「広く発達障がいを理解してもらおう」ことが実施目的の第一に掲げた。

また、三気の里がある大津町は、熊本県阿蘇の麓に位置し、子育てや障がい支援に力を入れている自治体であり、発達障がい理解の普及啓発は、いわば三気の里に与えられた使命でもある。

そして、何より当事者の方々やその家族、支援者にとって、住みよい地域づくりの一部を担っているという、意識を持って本事業を実施した。

場所は大津町生涯学習センター文化ホールを会場とし、『もっと身近に発達障がい』というテーマのもと、平成 27 年 8 月 29 日（土）（午後 1 時開演 午後 4 時 30 分閉演）に開催した。内容は講演会と映画上映の 2 部構成とし、225 名の参加者を得た。

事業の成果

第 1 部 講演『「うちの火星人」に気づいたとき』
講師；平岡禎之氏、成子氏

今から 7 年前に家族 6 人中 5 人に発達凸凹があることに気がついた平岡家ならではのエピソードや個々の特性をキャラクター化して、それに応じたトリセツ（取扱説明書）を作成し、日頃の生活に役立てている。また、様々な特性から生活の

し辛さを経験している人たちにとっては、その問題を緩和させてくれるヒントになる内容であった。

第 2 部 映画上映『シンプル・シモン』

アスペルガー症候群の主人公シモンが、兄の恋人探しの旅に出る中で出会う様々な人との交流を描いた内容である。アスペルガー症候群特徴を上手く捉え、且つユーモアたっぷりに描いた内容であった。

参加者数合計 225 名。

講演会告知ポスターを作製し、大津町広報誌や福祉・医療・教育等の関係機関を中心に約 200 件の宣伝活動を行った。どの機関もとても好意的に受け取っていただき、今一番話題性のある講演テーマであったという印象を受けた。実際、場内からは記入式で総数 20 件を超える質問が挙がり、各現場や家庭、中には当事者自身からの質問もあり、時間の都合で答えられなかったものについては、講師である平岡氏のご厚意により、後日ブログにて全て答えて頂いている。このように講演会当日だけではなく、その後も参加者となつたりを持つことが本事業の最大の成果であるといっても過言ではない。

また、講演後のアンケートを集計すると「このようなテーマを望んでいた」「もう一度企画をお願いしたい」「開催してくれて、ありがとうございます」などといった言葉を頂き、中には遠路はるばる鹿児島県や佐賀県より参加して頂いている。このように関心度は非常に高く、地域のニーズを改めて知るきっかけとなり、主催者である三気の

里と参加者である地域の方々を結ぶ、懸け橋がまた一つ出来上がったことを感じる機会となった。

■ 成果の広報・公表

本講演会の報告は、開所時より毎月発行している三気の里機関誌たんぽぽにおいて、写真と共に講演内容の記事を掲載した。三気の会後援会会員を中心に約 400 部配布した。また、本講演会の講師として登壇された平岡氏のブログでも、上記した質問の回答と言う形で本講演会の実施報告がなされた。

■ 今後の展開

今回、第 3 回三気の里講演会という形で実施し、次年度もテーマを変えて同様の事業を開催する予定である。三気の里は、自閉症療育施設という特性上、自閉症を含む発達障がいの理解を広く大勢の方々に求めて行く使命がある。また、今後も当事者の方々やその家族、支援者にとって、住みよい地域づくりの一部を担っているという意識を三気の会全職員が持ち、まずは日頃の支援を一つ一つ積み重ねることで、職員のスキルアップや今後の事業展開の足掛かりとしていきたい。